No.71

COMPASS

京滋慶友会

２０２４年４月号

・K（文Ⅰ）　「入学から一年(*^^)v」----------　1
・K.O.（文Ⅰ）　「入会のご挨拶」----------　2
・山之口翔（経済）　「三つ子の魂百まで」----------　2
・エルウッド優子（文Ⅲ）　「人生は一期一会」----------　3
・小崎紳太朗（文Ⅰ）　「慶應通信の夏スクーリングと京滋慶友会との出会い」-----　4
・田附広治（文Ⅰ）　「青春の 30 年と失われた 30 年」----------　5
・大川三津子（文Ⅰ）　「推し」について」----------　6
・編集後記　----------　7

入学から１年(*^^)v

K (文Ⅰ)

77 期春、慶應通信の入学式から１年がたち、ようやく１周まわり、慶應通信の仕組みが理解できました。

入学当初は仕組みが全く分からず・・塾生ガイド読みながら焦るばかり”(-“”-)”

この仕組みを理解するまでにはやはり、ある程度、レポート提出や科目試験、スクーリング、メディアなどを一通り経験し、仕組みを体感し、自分なりのペースをつかむことが大切だということが分かりました。

夏スクでは、よ～く会う（同じ授業だからそりゃそうだ笑)、首にタオル巻いて、暑い中、みんなに気配りしている、とても優しい方に出会ったことが、京滋慶友会との出会いでした。
単位のことや、テキスト、科目試験のこと、とても親切に教えていただき、さらに一歩前に進むきっかけになりました。
とてもアットホームな京滋慶友会、ありがとうございます！
みなさまとの出会いに感謝です　(*’ω’*)
（神奈川県在住）

入会のご挨拶

K.O.(文Ⅰ)

はじめまして。この度、2024 年３月に入会させて頂きました。京滋慶友会の仲間に入れてくださったことに心より感謝申し上げます。

私は、入学は 2018 年(学士入学、2023 年に文学部２類→1 類に変更)なのですが、諸々の事情によって数年放置し、単位を取りはじめたのが 2021 年の大阪スクーリングからでした。当時、あまりに学習に手がつかない状況のため、もう休学か退学の手続きをしようと思っていたところでしたが、何となく眺めたスクーリング案内をみて、週末で大阪だったら行けるかな、と思い受講を決意しました。コロナ禍でしたのでオンラインの講義でしたが、講義はとても面白く、単位をいただけたこともあって味をしめ、少しずつ他の科目にも取り組むことができるようになりました。

しかし、取得単位が 100 目前になり、最近はモチベーションの低下が著しく、慶應通信のことを誰かと話したいなという気持ちも強くなり、また、何となく眺めていたニューズレターの案内をみて、たまたまいける日程であった 2024 年３月の京滋慶友会の定例会に見学に行かせて頂いた次第でした。皆さまから刺激を頂きつつ、私もどなたかの学習のお役に立てればと思っております。これからどうぞよろしくお願いいたします。

三つ子の魂百まで

山之口翔（経済）

初めまして。2024 年から慶友会に参加しました。以後よろしくお願いいたします。さて、私の本質は「ええかっこしい」と言えます。子どもの頃から自宅では全く物事に集中して打ち込めない質でした。一方で、他人の目にさらされる環境下では何時間でも集中できる、変わった子どもでした。現在も仕事や勉強は専ら出先ですることがほとんどです。自身に最大のパフォーマンスを発揮させるためには、「ええかっこしい」の性質をたくみに利用し、「ほら、熱心に打ち込んでいますよ」という姿を（誰も私のことなんか見ていないのに…笑）誰かに見られている気になって、自身を集中させる環境に身を投じてしまうのです。

実は慶應通信に入学したのも、他人にお尻を叩いてもらうためでした。身の回りの環境が大きく変化し、経営や金融、証券の勉強を始めてみたものの、全くはかどりませんでした。原因は２つありました。

①学びが体系化されておらず、自身の求める知識がニッチすぎる
②誰も「早くやりなさい！」と叱ってくれない（笑）

必要な知識から順番に得ていっても、それぞれの知識が独立・乱立するだけで、シナジーが生まれないのです。バラバラの知識を繋げるべく頼ったのが、大学でした。学べるのであればどこでも良かったのですが、調べるうちに「慶應通信は卒業が難しい」と聞き、慶應以上にお尻を叩いてくれる学び舎はあるまいと思い、入学を決めました。せっかく学ぶのであれば単位を取るための学びではなく、少しでも深淵を覗いてみたいと考えたのです。

自己紹介が長くなってしまいましたが、私は新参です。上記、生意気な物言いも含め、ふつつかな振る舞いもございましょうが、末永く良しなにお願い申し上げます。

人生は一期一会

エルウッド優子(文Ⅲ)

この世に生を受けて〇年目の誕生日の今日、ここ遠いハワイの地から会報誌『 COMPASS』に寄稿させていただいています。私は文学部Ⅲ類 エルウッド優子と申します。

内容や量に特に規定はないとのことでしたので、この京滋慶友会に入会することになったきっかけを主にお話しましょう。それは、昨年の夏のスクーリングでのことでした。私は母を在宅介護しているという環境上、通常スクーリングに通うことは難しく、行けたとしても三田の一期分だけでした。しかしラッキーなことに昨年はその期間に夫が母を看てくれるということで、初めて日吉で受講が可能となりました。選んだ科目は「イタリア文学」。片道2時間かけ辿り着いた日吉教室。意気揚々とドアを開けるもそこは、しーんと静まり返っていて、なんだか場違いな印象さえ受けました。が、、、なんとその中に一際目立ったグループの存在があったのです。教室の真ん中から聞こえてくる何とも楽しい会話。しかもなんとその会話が関西弁 ！ 徳島出身で大阪在住歴２０年の私にとって関西弁は大切な言語です。思わずその見ず知らずの関西弁グループに話しかけ、５秒後には席を移動しそのグループにジョインさせていただいておりました。そして、まさにそこにいらしたのが我らの会長、森井八恵子氏というわけです。お美しくて、知的で、かっこよくて、本当に優しいそのお人柄に一目惚れ。京滋慶友会の会長だと伺ったその瞬間に入会を決意したといった次第です。たった6日での講義の中に人生を変えるほどの奇跡的な出会いがあったのです。この一期一会のご縁に大変感謝しています。

私の考える学問というのは、決して単位、学位取得のためといったものではないのです。勿論それも大切でしょう。しかし、この年からの学問というのは、既成の知識の体系ではなく、人の生きる道や独立のために必要な学び、新しい知識をクリエイトする精神や身体を追求したいということなのです。

慶應通信で真の学問に触れ、学び、卒業することは私のバケットリストの中の1項目です。まだまだ他に何項目もありますが、これから1つずつ全部やっていくつもりです。

今年の4月から母には施設に入居してもらい、私は夫と二人でハワイでの生活が始まりました。

遠方であるため、暫くは科目試験は受験できないでしょう。しかし今、人生のマイルストーンの一つを迎え、新たな文化圏の中で日々の学びを楽しみながら、自己相対化ができる視野の確立に努めています。そしてそんな中、今日、また一つ年を重ねました。友人たちから沢山バースデーメッセージをいただきました。なんて幸せな事でしょう！！

映画“Forrest Gump”の中に

“Life is like a box of chocolates. You never know what you're gonna get.”という台詞が出てきます。

本当にそう思います。どんなチョコレートでも目一杯楽しもうと思っています。

皆さま、どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

慶應通信の夏スクーリングと京滋慶友会との出会い

小崎紳太朗(文 I)

（写真　小崎さん）

2023 年の夏スクーリングでは「社会学専門（生の社会学）岡原・小倉教授」を受講することにしました。

この授業は一般的な講義とは全くに異なっていました。甲子園の高校野球決勝の日はパブリックビューイングで塾高の試合を開始から閉会式まで全部見せてくれるほど自由でした。偶然通りかかったであろうと思われる大学の職員さんも教室に来て、嬉々として一緒に応援していたのも印象的でした。自由と塾全体の団結（愛塾心）を基調とした慶應義塾の校風「社中協力」を象徴としているように感じました。義塾野球部全体のテーマである「エンジョイベースボール」が高校野球選手権を制覇したことも、野球を愛し、プレイしている私にとって大変嬉しいことでした。

が、この授業の魅力はそこにとどまりません。所謂、教授が教壇に立って「業を授ける」形式ではなく、受講者それぞれが講師であり生徒であるまさに「半学半教」の精神を体現した形式でした。テーマは、「生の社会学」で受講者は、自分の歴史を語る、そして、他の人たちの自分史も聞く、感想を語り合って、ライフストリーアートとしてグループ毎に表現する・語るというものでした。社会人の皆さんのお話を聞いて高校卒業後に入学した若輩である私は、自分の幼さ、経験の無さ、勝手さ、独りよがりの思考を認識しました。

人生で直面する様々な出来事の受け止め方は人それぞれです。それをグループで「ある一つの形」に表現するにあたっては、感情や考え方の摩擦・板挟み・重圧もありました。が、発表後、「感動しました」「引き込まれました」という言葉を色んな人にかけて頂き、自分の心の中で様々な思いをつなぎとめていた箍が外れて授業後の打ち上げ・懇親会で泣いてしまいました。人間、そのつもりがないのにふと涙が出ることって本当にあるものです。今回発表したライフストーリーのモデルとなった受講生の方からは、「私のことを真に理解してくれて救われました」と言って貰えて報われた気持ちになりました。また、教授からは「情熱（パッション）」の語源である「受苦（パトス）経験」についての話を聞かせて頂きました。

あの夏のスクーリングは、間違いなく、自分の今後の人生に大きく響く貴重な経験になりました。生きていること自体が社会学のテーマになると感じた瞬間でした。そして、「慶應義塾・通信教育課程という環境を選んで本当に良かった」そう思えました。

そして、あの夏のスクーリングから８か月が経ちました。

今、スクーリングに参加して良かった出来事をもう一つ付け加えます。それは人との「縁」です。京滋慶友会に入会

するきっかけとなったのは佐々木さんです。スクーリングの初日を終えて一人ホテルへ戻る際、ふと思い立って、いつものように東門から出るのではなく正門から慶應商店街を歩いていました。その時に、居酒屋で飲んでいた佐々木さんが私に気づいて「一緒に飲もう」と言ってくださったのが始まりでした。

そもそも佐々木さんは、岡原・小倉教授の授業において無作為に作られたグループで偶然一緒となったに過ぎません。また、私が思い立って慶應商店街を通らなければ、そして、佐々木さんが私に気づいていなければ、恐らくその後、毎日、佐々木さんと一緒に授業後に飲んだりはしていなかったでしょう。また、こうして京滋慶友会の皆様にお会いすることもなかったし、こうして原稿を書くこともなかったと思います。

こういった「縁」を今後も大事にしていこうと思っています。

若輩者ですがどうぞよろしくお願い致します。

青春の 30 年と失われた 30 年

田附広治(経済)

「日本は、衰退していると思いますか？」と問うと Yes と返答する方が多数でしょう。
では「なぜ、そう思いますか？」と問うと、ちょっと考えますよね。

・GDP が伸びず世界順位も落ちているから
・貿易赤字が続いているから
・円安だから
・賃金が増えず実質賃金はマイナスが続いているから
・少子高齢化で人口も減少してきたから
・国の借金が膨大で国債に頼る財政に将来の明るさが見えないから

では、「日本が、経済的により発展することを望みますか？」と問うとどうでしょう。
Yes・No はたぶん半々ぐらいかな…と思います。衰退と発展は反対の意味になりますが、発展を期待する人は、必ずしも多数ではないでしょう。今後、日本の発展はないと思っている人が多く、発展どころか衰退する。良くても停滞だろう。もし無理な政策をすれば、その反動がより大きくなるだけだろと…。例えば「もっと国債を発行する」「ゼロ金利政策をまだまだ続ける」ことはよくないと思う人が増えている。「発展＝幸福」になるとは限らないと思う人が多い気がします。

私は、経済発展はなくても幸に過ごすことは、出来ないものだろうか？と前々から考えています。「幸福になりたいですか？」と問うと、きっと 100％Yes でしょう。みんなめざすところは、幸福であり経済発展はただの手段のひとつでしかありません。

さて、戦後日本は、経済的に急成長を遂げ世界第２位の経済大国になり、世界の奇跡と言われました。私が生まれたのは 1960 年。家は貧しいながらもテレビ・冷蔵庫・洗濯機が我が家にもきました。親父は、新しもの好きでローンで買ってきます。冷たいビールを飲みながらプロレス・相撲・プロ野球を見、私はマンガばかり見ていました。私が勤めだした 80 年代は、モーターリーゼーションの真只中で、やっぱり僕もローンで車を買いました。車に乗れるトキメキとどこへでも行けることで世界観が広がりました。このときの感動は画期的でした。初めて何かが出来ることは、いつも新鮮で感動を与えてくれますね。

私が生まれてからの 30 年と俗に言われる失われた 30 年を比較した場合、どちらの幸福度が高いのだろう？今の時代の方が生活的に便利になったし働く時間も減少し昔のようにモーレツ社員なんていません。どう考えても豊です。でも一方で格差社会が拡大しているし、非正規社員が増え雇用形態も変わってきている。少子化が改善される見込み

もない。果たして今の時代の方が幸せか…？

「幸福＝豊かさ」を考えてみます。豊かさの中身はいろいろあるし、ひとそれぞれです。

経済的には、お金があること、欲しいものを手に入れること、便利になること、今より楽になること、旅すること、などが浮かびます。精神的には、自由な時間を持つこと、読書すること、音楽鑑賞、自然に接すること、愛があること、利他的に生きること。

精神的豊かさにも生活するにはお金が必要なので、いずれにしても経済は深く関わります。ただ心の効用(満足度)によりお金への執着や価値観が変わる可能性があります。お金の使い方も変わってくるでしょう。考え方が変われば何で効用が得られるかも変わるだろうし、何より価値観が変わるでしょう。すなわち経済的生活スタイルが変化してくると言うことです。私が、「大学で経済学を学びたい」動機はここにあります。

政府はコロナ禍の３年を総括しませんが、失われた 30 年も総括していません。30 年と言わず、5 年･10 年の節目で総括し、次の正しい方向を見極めていくのが、常道にも拘わらずしていません。だから「国の将来が、見えない・伝わらない・夢も希望もない」に繋がります。それを憂いています。

終戦が 1945 年、私が生まれたのが 1960 年だから「1960-90 の 30 年」「1990-2020 の 30 年」のデータを比較して、経済的・社会的・精神的に検証したいと、私は考えています。

・経済的には、GDP/産業構造/所得/所得再分配/人口構成/雇用形態/IT/ジニ係数など

・社会的には、政治施策/流行/芸能文化/メディア/教育/投票率/災害/公害/携帯など

・精神的には、価値観/時間の使い方･･･など

対象は、いろいろあり過ぎるので取捨選択するにしても、時代を検証し、そこから将来図またはあるべき姿・方向を描きたいのです。経済の知識や考え方を学びながら答えが導き出せたらと考えています。これが当面、私の自由研究課題です。

記）’24-4-20

「推し」について

大川三津子（文Ｉ）

お気に入りの○○・○○贔屓とか言ってました。いつからそうなったのか、今では「推し」が主流となっています。「推し活」・「推しメン」・「推し事」などの派生語まで出てきました。

そこで自分の「推し」を考えてみました。慶友会も、もしかしたら慶應「推し」の集まりかも知れません。

サザンオールスターズ

昨年、めでたく45周年を迎え、多くは歌詞に深い意味はなく、語呂の良さと乗りだけを軽快なリズムに乗せて歌い上げます。（真面目な曲もあります）常に新しい風を取り入れつつも先人をリスペクトして融合させています。

ユーミン

同じく50周年を迎えましたが、こちらは何と言っても歌詞の内容の深さが心に刺さります。誰にも身に覚えがあることを巧みに言葉で操れるのは天才としか言えません。

阪神タイガース

昨年、38年ぶりの優勝を果たして、関西はお祭り騒ぎだったのですが、関西人は親の代からの阪神ファンが多いで

す。本拠地の甲子園は兵庫県なのに何故か、大阪色が強く、たこ焼き・お好み焼きと並んで大阪の代名詞のようになっています。昨年は優勝のお決まりとして、友人や親戚に内祝いをばらまきました。

朝ドラ

子どもの頃から朝は時計代わりにNHK固定になっていて当たり前のように見ていました。その習慣が今でも続いております。15分と短いのが良いのかも知れません。一気に見るよりも小出しなので続きが見たくなり翌日への楽しみとなるものです。

まだまだ「推し」はあるのですが挙げればキリがありませんのでこれぐらいにしておきます。結論としては、度を超すと宗教のようになってしまいますから程ほどにしておくことと、こっそり好きでいるより大っぴらに表明すると、もしかしたら同じ趣向の人が見つかるかも知れませんので、初対面の自己紹介にはこれだと思います。その人のイメージが掴めるのではないでしょうか。

ちなみに 11 月 4 日は「イイ推しの日」だそうです。

編集後記

昨年秋に、京滋慶友会の皆様とともに大阪北浜の適塾を訪問し、安政２年に入門した福澤諭吉をはじめ、史上に名を残した方々を多く輩出した、適塾という場所がどのようなものであったのか、推察することができました。今年１月には、池田幸弘経済学部教授による「福澤諭吉研究入門」講演会が行われ、さらに理解を深めることができたのですが、そのとき池田先生が仰られていたこと、「学問のすすめ」は１８７０年代の著作で、その中で問題とされていたことは克服されたと言う人もいるが、全然変わっていないんじゃないかとも感じられる、という言葉が、適塾の風景とともに、記憶に残っています。今号にご寄稿していただいた皆様、ありがとうございました。　（徳元）

会報誌 COMPASS　No.７１　２０２４年４月号

発行　京滋慶友会

京滋慶友会コンパス編集部

無断での転載・複製を禁じます。All rights reserved.